



Welcome to our school!

~米国フィンドレー大学から5名のお客様が来校しました~

後期課程 副校長 永廣 裕子

本校には、毎年多くのお客様が来校します。ここ数年は外国のお客様も多数来られるようになりました。本年度も、5月13日（月）からアメリカのフィンドレー大学の先生2名、学生3名が来校しました。

フィンドレー大学はアメリカの東部のオハイオ州の人口約4万人のフィンドレー市にある大学で、教育・医療健康・薬学・ビジネス・人文社会科・自然科の6学部で構成された総合大学です。その大学で将来教職の道を目指している学生と教官が本校の授業や行事に参加して、日本の教育について学ぶために来校しました。本校とはつながりが深く2年前から訪問が始まり、今年で3回目になります。今年も3週間、授業や行事に参加して様々な交流が行われました。



ポール 教授, レベッカ サバンナ ジャッキィ アリソン  
Paul教授, Rebecca, Savannah, Jackie, Allison教授



前期課程3年生の授業では、「I like ~.」「I don't like ~.」「Do you like ~?」「What do you like ~?」などの表現について、スポーツ、食べ物、動物などをあてはめながら学んでいました。その後、「I like Gorilla.」「I like to thump my chest.」と言ってゴリラになって胸を両手でたたいたり、「I like penguin.」「I like to turn my head.」と言いながら、ペンギンになって頭を動かしたりしていました。外国語活動に身体表現を取り入れることで、子どもたちは楽しそうに活動していました。子どもたちの口、耳、頭、心がフル活動している様子を見て、本物の英語に触れる大切さを実感しました。



後期課程の7年生の授業では、自己紹介の授業を行っていました。グループごとに各自が調べてきた英語の自己紹介を披露します。「My name is ~.」「I'm in the ○○ club.」「I practice ~ every day.」などの表現を使い会話をしていました。一対一でのやり取りに、子どもたちはとても緊張した表情でした。後で子どもたち

に感想を聞くと、「ドキドキしたけど、終わってみると楽しかった。」「本当に伝わってホッとした。」と話してくれました。自分の表現したかったことが、苦労しながらも実際に伝わり、会話が成り立つありがたさを感じたようでした。

給食の時間は、子どもたちと一緒に会話をしながら楽しそうに食事をしていました。

給食について学生に尋ねると「健康的でおいしい食事をありがとうございます。」と言ってくださいました。また、「アレルギーの学生に対しても、細かい配慮をしてくださり感謝します。」とお礼を言わされました。ついつい忘れがちで当たり前と感じていることに感謝されて、給食のありがたさを再確認しました。



まもなく3週間の実習が終了する5名の訪問団に、日本の教育について感じたことを聞いてみました。すべて聞き取ることはできなかったのですが、以下はその内容です。

#### ☆日本の学校を訪問しての印象は？

- とても素晴らしい (brilliant)。学びのベースになることをきちんと行っている。大変尊敬できる。幼稚園から中学校まで、また生徒も先生もお互いが尊敬している。アメリカは、教育目標の一つである「Progressions of Learning」すなわち、スタートから学びを繰り返し積み上げていくことが多い。日本の場合は、幼稚園の子でさえ何から学ぼうか自分で考えていた。
- 休憩時間が長いのに驚いた。アメリカは授業と授業の間の休憩が4分しかない。その間に次の科目的準備をしないといけないので大変。それとは違い、日本は10分もある。その間にリラックスして「もう一回やろう！」という気持ちに切り替えて臨むことができる。
- 前期課程の児童はオープンマインドである。何でも、思ったこと、感じたことを伝えてくれてうれしかった。
- 学校全体としては、活動の切り替えがきちんとできていて、落ち着いて行動している。
- 子ども同士で教え合いをしている。それが、後期課程まで継続発展しているところが素晴らしいと感じた。
- 学年プロジェクトがユニークで素晴らしい。7年生の活動を見たが、パワフルで素晴らしい。日本だけでなくアメリカの学校のモデルになってもよいと思う。とても有意義 (special)な時を過ごせた。

#### ☆日本の子どもたちに何か伝えたいことは？

- できないことを気にせず、自分を信じて勇気をもってトライし学び続けてほしい。
- 2, 3度と日本の福井に来るたびに、子どもたちや先生から必ず新たに学ばされることがたくさんある。みなさん、ありがとう。
- この訪問で学んだ数え切れないことを、必ずアメリカに戻って後輩たちに伝え教えていきます。来年もぜひ学びに来ます。

本校には、現在もインドネシアの留学生が毎週理科の授業を参観しに来ています。また6月10日にはシンガポールから11名の中学生が交流のために訪問します。さらに、6月24日からは、エジプトの先生方が日本の教育について3週間の研修を行うため来校します。

これらの機会を通して、子どもたちには、英語を使って話をするだけでなく、世界各国の人たちの文化や習慣を知り、改めて日本の良さや課題について考えてもらいたいものです。

**編集後記** 本校では、5年生よりオールイングリッシュの授業を行っていますが、近年、海外からの訪問が増え、外国の方と直接英語を使ってコミュニケーションをとる機会がさらに増えています。これからも、国際交流を通して、世界とつながるグローバル教育を大切にしていきます。－後期課程教頭－